

## 2020年度 日本造園学会関西支部大会(大阪) 研究・事例発表プログラム

2020年10月25日(日) 於 : Zoom開催

No.	発表者 ○:発表者	所属	発表タイトル
<b>10:05～10:50 第1セッション 座長(井原 縁:奈良県立大学)</b>			
1	○酒井陽子1, 轟慎一1	1 滋賀県立大学大学院環境科学研究科	滋賀県近江八幡市八幡伝統的建造物群保存地区における町並み保存・形成に関する基礎的研究 ～重要伝統的建造物群保存地区選定後の保存修景と事業過程を中心として～
2	○阿久井康平1, 雪裕容2, 下村泰彦1	1 大阪府立大学大学院 人間社会システム科学研究科 2 University College London The Bartlett Faculty of the Built Environment	天王寺七坂における坂道景観に関する研究
3	○島原成児1, 今西純一1, 浦出俊和2	1 大阪府立大学大学院生命環境科学研究科 2 摂南大学農学部	南京桃生産の継承に関する研究 —伊丹市東野地区を事例にして—
<b>11:00～11:45 第2セッション 座長(眞名 涼:京都大学大学院)</b>			
4	○水内洋樹1, 阿久井康平2, 下村泰彦2	1 国土交通省 近畿地方整備局 河川部水政課 2 大阪府立大学大学院 人間社会システム科学研究科	京都東山山麓における社寺の立地特性に関する研究
5	○朝日ひかる1, 轟慎一1	1 滋賀県立大学環境建築デザイン学科	三河湾三島における集落空間と景観構造 ～島嶼集落のデザインサーヴェイ～
6	○大場悠暉1, 山本祐吾2, 吉田登2, 原祐二2, 三瓶由紀3	1和歌山大学大学院システム工学研究科 2和歌山大学システム工学部 3京都産業大学生命科学部	保全優先度の高い棚田を選定するモデルの構築と事例分析
<b>11:55～12:40 第3セッション 座長(浦崎 真一:株式会社公園マネジメント研究所)</b>			
7	○高宮さやか	1 京都芸術大学大学院博士課程芸術専攻	日本庭園の底流にあるアニミズム
8	○吉川大輔1, 小椋菜美1・2, 加藤友規1・3, 池田裕英4, 吉村龍二5	1 植彌加藤造園株式会社、2 京都大学大学院地球環境学舎、3 京都芸術大学、4 奈良市教育委員会、5 株式会社環境事業計画研究所	特別史跡特別名勝平城京左京三条二坊宮跡庭園の復原整備工事における植栽管理と地割りについて
9	○小島弘嗣1	1 京都芸術大学大学院芸術研究科	石組の「動き」に関する一考察
<b>12:40～14:00 昼食</b>			
<b>14:00～14:45 第4セッション 座長(今西 純一:大阪府立大学)</b>			
10	○梅澤優紀1, 轟慎一1	1 滋賀県立大学 環境建築デザイン学科	長岡市中心市街地における街路整備と土地利用の変化 —戦災復興都市・長岡にみる都市形成—
11	○安達ひかる1, 阿久井康平2, 下村泰彦2	1 大阪府 福祉部 家庭支援課 2 大阪府立大学大学院 人間社会システム科学研究科	中之島にぎわいの森シンボルツリーの景観特性に関する研究
12	○三瓶由紀1, 原祐二2	1 京都産業大学生命科学部 2 和歌山大学システム工学部	地方大学における敷地を活用した環境教育による地域貢献の可能性
<b>14:55～15:40 第5セッション 座長(岡田 準人:大阪産業大学)</b>			
13	○足立舜1, 轟慎一1	1 滋賀県立大学環境建築デザイン学科	滋賀県における大規模小売店舗の変遷に関する研究 ～立地・縮退にかかる変容に着目して～
14	○杉本拓朗1, 松尾薫1, 武田重昭1, 加我宏之1	1大阪府立 大学大学院 生命環境科学 研究科	関西圏におけるストリートダンスに使われる場所の特性
15	○日高千恵1, 高梨武彦2, 山田匡2	1 京都造形芸術大学通信学部卒業生 2 京都芸術大学 3 (株)E-DESIGN	Co-Walking -第2世代臨港線- 遊歩道改善による町の進化
<b>15:50～16:35 第6セッション 座長(嶽山 洋志:淡路景観園芸学校)</b>			
16	○椎原大貴1, 松尾薫1, 武田重昭1, 加我宏之1	1 大阪府立大学大学院生命環境科学研究科	住民の散歩行動からみた南港ポートタウンの歩行者専用空間の魅力性
17	○小辻萌菜里1, 轟慎一1	1 滋賀県立大学環境建築デザイン学科	個と共、内と外からみた高齢者施設の空間構成と設計手法 ～ウィズコロナ・ポストコロナに向けて～
18	○矢口芽生1, 岩崎哲也2	1 淡路景観園芸学校／兵庫県立大学大学院 緑環境景観マネジメント研究科 2淡路景観園芸学校／兵庫県立大学大学院 緑環境景観マネジメント研究科	淡路島北部地域の昆虫相調査の途中報告およびコロナ禍における観察会の新たな手法について ～ツイスト・バルーンを用いた観察ディスタンス～